鳥獣害から
農林産物を守る
《鳥獣害対策早わかり》
OITA
大　分　県

1 みんなで勉強　鳥獣の生態と対策

◎印は被害対策に活かせる特徴です。

イノシシ

（杵築市で撮影）

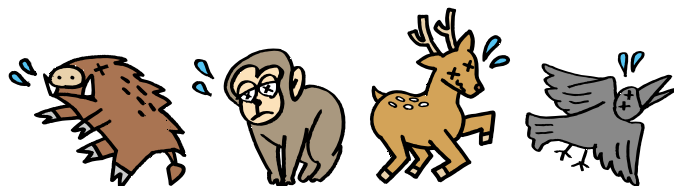
生　態	対　策
• 出産　4~5頭／年(春~初夏) 約半数が成獣になる	
◎警戒心が強く臆病 ヤブから出る時、必ず止まって確認	草刈りをして、隠れ場所をなくす
• 夜明・夕方によく活動（本来昼行性）	
◎有蹄類（ひづめがある）	金網などを敷いて足場を悪くする （金網の上を歩くのを嫌う）
• 雑食性	
• 犬なみの嗅覚	
◎鼻で探して目で確認	複数の対策を組み合わせる （作物をイノシシから隠すことが有効）
• 学習能力があり、記憶力抜群	
◎怪力（鼻で70kg持ち上げる）	柵の接地面を補強する
• 跳躍力は、その場で1m以上	
• 障害物は跳ぶよりくぐり抜ける	
◎幼獣は15cm格子を通り抜け、 成獣は20cm程度のすき間をくぐる	柵の格子は10cm以下
◎トウガラシ（特にタカノツメ）など が嫌い	農作物の周りに植える

ニホンジカ

（竹田市で撮影）

特徴的なシカの糞

生　態	対　策
• 出産　1頭／年（5~6月）	
◎豊富なエサで数が増える	集落がエサ場とならないよう、 集落みんなで追い払う
• 昼夜を問わず群れで行動	
◎有蹄類（ひづめがある）	網を地面に垂らすと、足の蹄が 網に入るのを嫌がる （シカは足元の網が苦手）
• 草食性（木の芽、草を食べる） 嫌いな草、木はほとんど無い	
• 1日に3~4kg食べる	
• 果樹の葉などは、口の及ぶ範囲が 食べ尽される 	
◎ネットの下からも侵入	柵の接地面を補強する
• 始めはネットの下からもぐって、 無理ならネットを飛び越える	
◎高い跳躍力	柵の高さは1.8m以上
• 学習能力があり、思ったより大胆	

有害鳥獣とはどういう生き物？
本来は、大変臆病です。
しかし人慣れが進むと大胆になります。
早め早めの対策が重要です。

ニホンザル

（大分市で撮影）

生態	対策
・出産　1～2年に1頭（春～夏）	
・サル年齢＝ヒト年齢÷4	
◎縄張りを持ち、群れを形成する →	群れを分散させずに群れごと追い払う
・母系集団（エサを求め群れで動く）	
・群れを分散させると離れザルが増える	
◎木登りやジャンプ力など高い運動能力（柵、ネットの上から侵入） →	作物を林縁部から離して栽培 飛び込みの足場を無くす、放任果樹の伐採
◎学習能力はあるが、慣れるのに時間がかかり融通が利かない →	集落全体の追い払い行為で威嚇し、 集落に慣れさせない、集落をエサ場にさせない
◎一度味わった恐怖体験は忘れない →	入れても出るのに苦労する柵で恐怖心を持たせる
・雑食性	
◎トウガラシやシソはあまり好まない →	農作物の周りに配置する

カラス

（別府市で撮影 ハシボソカラス）

（杵築市で撮影 ハシブトカラス）

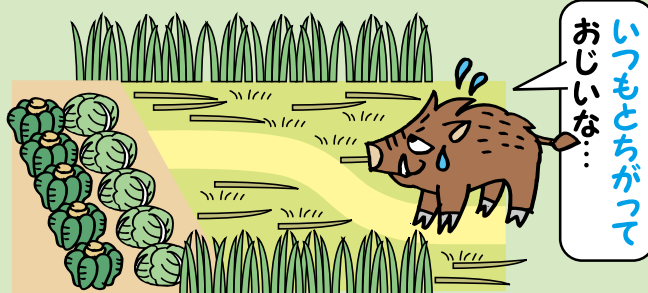
生態	対策
・産卵　3～5個（3～７月）	
◎翼開長は約1mで、翼が物に触れるのを嫌がる →	テグス、水糸、針金等の張る間隔は1m未満とする 播種時は地上30cm程度の高さにテグスを張る（あまり低いとまたぐ、高いとくぐる） 収穫時は作物より5cmほど高くテグスを張る 防鳥ネットの網目はカラスだけなら7.5cm四方（スズメの侵入を防ぐには2cm四方が必要）
・雑食性	
◎棲息環境は樹林地の林縁部か明るく疎林のある草原･農耕地･河原（カラスは田畑に大空からいきなり急降下しない） →	侵入方向と高度の確認 林縁部から離して作物を植える 圃場周辺の高木を切る
・夜も人並みには見える、色も識別できる	
・嗅覚はあまり発達していない	
◎記憶力もよく人の顔を覚える →	追い払いの効果はある

2 鳥獣を寄せ付けない環境づくり

1.耕作地周囲のヤブの草刈り

① 耕作放棄地全ての解消は無理でも、耕作地・住宅周囲のひそみ場所をなくす
② 耕作放棄地の周りだけ、真ん中だけでも刈り、ひそみ場所をなくす

2.出没する箇所の草刈り

① 雑草の草丈が高くなれば、どこでもひそみ場所になる
② ただし、のり面などは、8月中旬以降は刈らない、冬場に青草にしない(エサになる) →刈るなら12月

3.知らずにやっていた餌付けをやめる

①生ゴミを捨てない

ゴミ捨て場の生ゴミ→対策:しっかり囲う

②取り残し野菜・果樹を適切に処理→対策:埋めるかコンポストへ入れる

③収穫しない果樹→対策:収穫できない場合は、伐採する

④稲刈り後のヒコバエ(再生株)や雑草が冬場のエサになっている→対策:刈り取るか、すきこむ

9～10月上旬の稲刈→できるだけ早く一度耕起、もう一度12月下旬に耕起
10月中旬以降の稲刈→12月下旬に耕起

(宇佐市院内町)

捕獲されたシカの胃袋から出て来たヒコバエ

⑤牧草がシカ、イノシシのエサに →対策:牧草地もできるだけ柵で囲う

イノシシの足跡

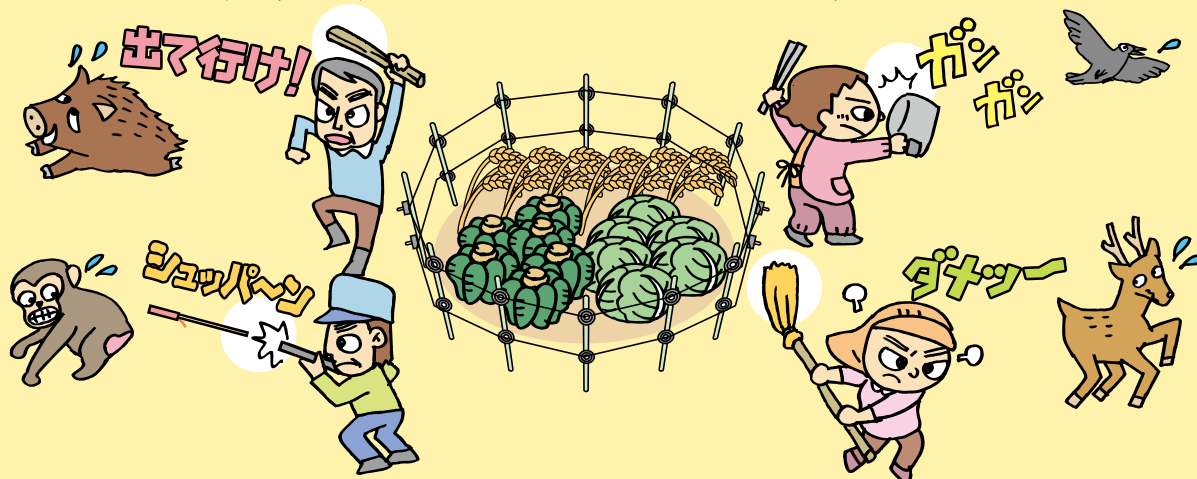
イノシシがはき出した牧草の噛み跡

牧草地に残るイノシシのこん跡:糞(竹田市久住町)

⑥廃ほだ(使用済みしいたけ原木)に付く甲虫の幼虫がイノシシのエサに →対策:ほだ場から離れた場所に廃棄する

これらのエサが鳥獣を集落へ寄せ付け、栄養となって繁殖率・生存率を高め、頭数を増してしまいます。

集落で鳥獣を見たら必ず追い払おう!!!

イノシシ・シカ・サル等に集落や農地は危険な場所だと学習させるために、出没したら必ず地域ぐるみで追い払いを行い「人間は敵だ!」と思わせることが重要です。
鳥獣がまだ集落や農地にいるのに、地域ぐるみでの追い払いが不十分であると人慣れが進み、餌付けにつながります。「フリ」ではなく「本気」の追い払いが必要です。

※追い払いにロケット花火を使用するときは、枯れ草や落ち葉等が多い場所や時期等火事の危険がある場合は避けてください。

鳥獣害に強い「守れる畑」をつくろう！

畑における作物のつくり方でも、イノシシ·シカ·サル·カラスから守れるようにしておくことが重要です。出荷用の畑も家庭菜園も工夫しだいで、守れる畑にできます。「ちょっとくらい盗られても」と放って置くと、どんどん被害がひどくなって、その畑だけでなく、集落全体が鳥獣のエサ場となってしまいます。

①野生獣の嗜好性の低い作物を畑の周辺に植える

トウガラシ（特にタカノツメ）やシソなどイノシシやサルの好まない農作物を、農地の外周に目隠し代わりに植える。その内側に被害に遭いやすい作物を植える。植える順番を変えるだけでエサ場としての価値は低下する。

②ツル性のマメ科作物は畑の中央部に植える

インゲン、エンドウなどのツル性の野菜を、畑の周囲ではなく中央部に植える。畑の周囲に植えた場合は、防護柵で囲ってもツルが柵外に伸びるため、食害されやすい。

③野生獣の堀返しから守りやすい栽培方法　竹マルチ栽培（サツマイモ）

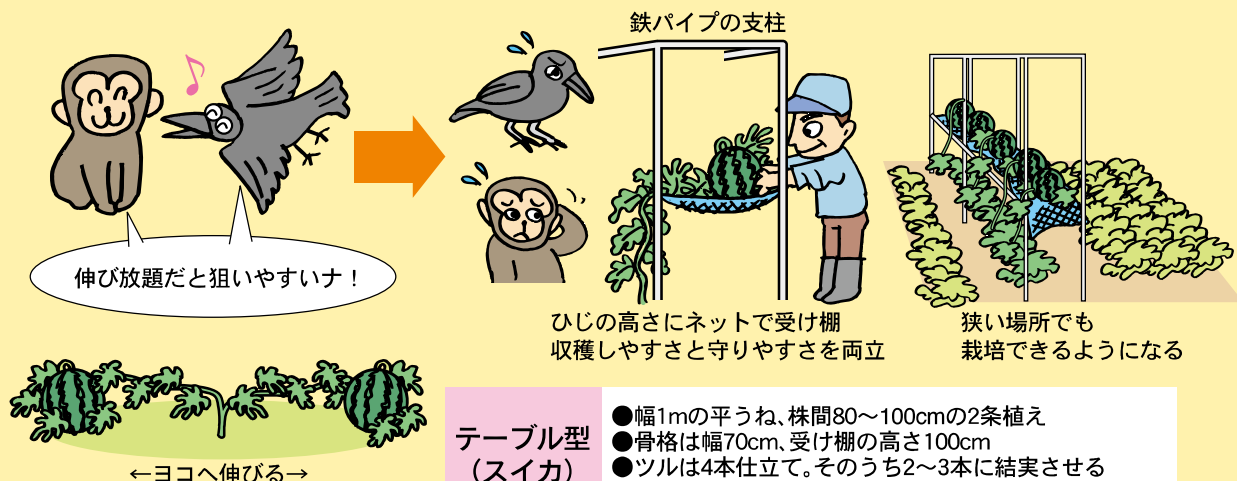
③

竹をうねに並べてマルチに
サルやイノシシもこれなら手も足も出せません

- 植える時は竹の隙間から苗を挿すだけ。収量は変らない。
- 耕耘後のうねに竹を並べる。針金などで竹同士を固定しておくとイノシシによる堀上げを防ぐことができる。

④カボチャやスイカの立体的な栽培

カボチャは、ネットに沿わせて立体的に栽培する。スイカは、ネットに沿ってツルを誘引し、受け棚の高さに開花した雌花を育て果実をならす。いずれの方法も、狭い畑でも畑外にツルがはみ出すことなく栽培でき、防護柵で囲みやすくなる。

④ カボチャ

テーブル型（スイカ）	●幅1mの平うね、株間80〜100cmの2条植え ●骨格は幅70cm、受け棚の高さ100cm ●ツルは4本仕立て。そのうち2〜3本に結実させる ●上からネットで囲えばカラスなどの鳥害からも守れる

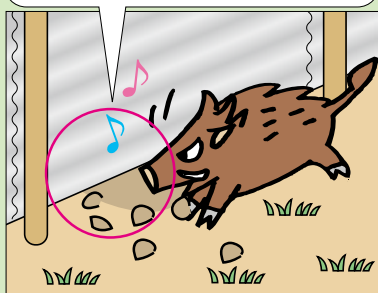
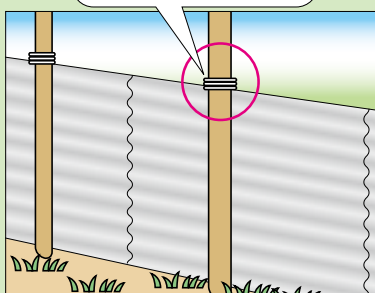
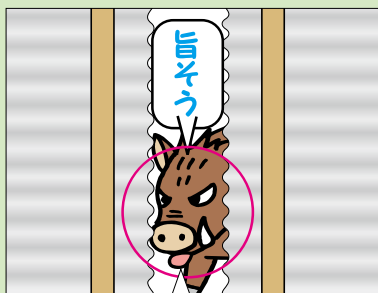
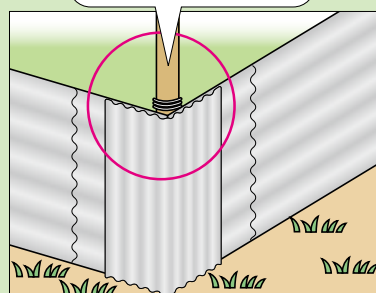
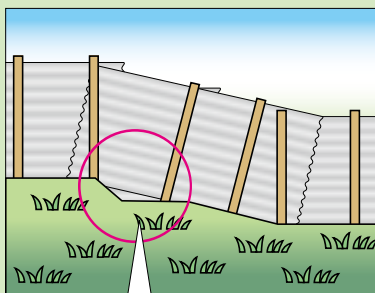
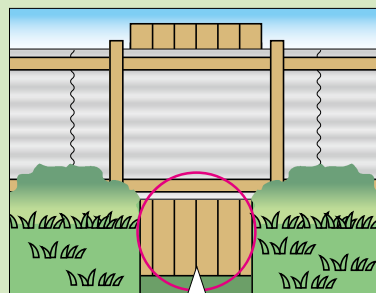
3 農地を効果的に囲う

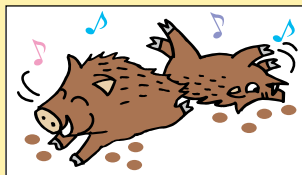
1.トタン柵

トタン柵はおもにイノシシ対策に使用され、柵の中の作物を見せない「目隠し効果」が重要です。設置に当たっては地際や角に隙間をつくらないことが最も重要なポイントになります。

【各種防護柵の価格の目安】

防護柵の種類	対象獣	単価(円/m)	備　考
トタン柵	おもにイノシシ	500円前後	
ワイヤーメッシュ柵	おもにイノシシ	300～　500円	
金網フェンス	イノシシ、シカ	200～1,200円	
電気柵	イノシシ、シカ	300～1,000円	イノシシは2段 シカは4段
ネット柵	イノシシ、シカ、サル	200～1,200円	
猿落君	サル	400～　500円	

5～6cmでも開いているとイノシシは
鼻を入れて持ち上げようとする
地際はぴったりふさいでおく

持ち上げられぬよう
針金でしっかり固定

トタンを重ねて角にも
すきまをつくらない

隙間をつくらない
作物を見えにくくすること

傾斜のあるところも
隙間をつくらない

排水などの溝も
きっちりふさいでおく

動物は臭い・音・光に慣れる

クレオソートを
体に擦りつける

臭い・音・光などの忌避材は、
そのものを嫌っているのではなく
仕掛けられたことによる「環境の変化」を
警戒しているだけ→慣れたら効かない。
効果は一時的。

木酢液をなめる

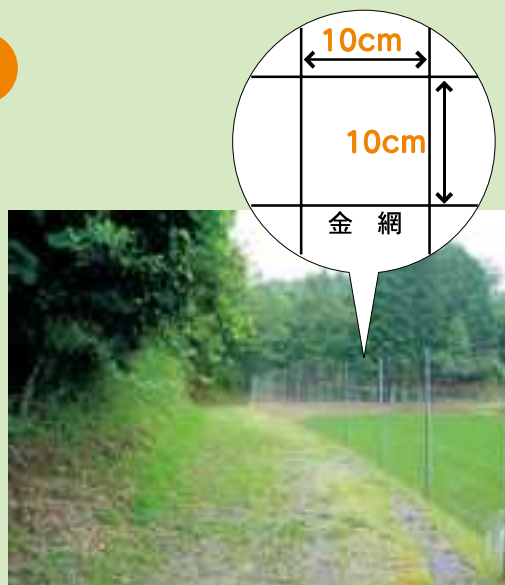
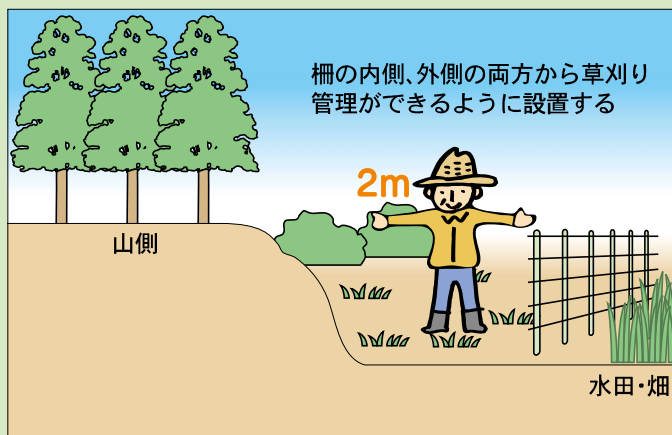
猛獣の糞に
体を擦りつける

赤や青の色による忌避材についても、
イノシシは青色系については識別できるが、
赤色系は灰色と区別できない。
また青色についても
忌避するわけではない。

科学的根拠のある情報を選ぼう！

2.ワイヤーメッシュ柵・金網フェンス

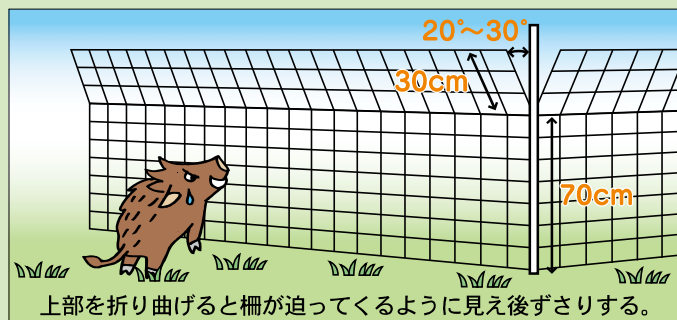
(1)共　通

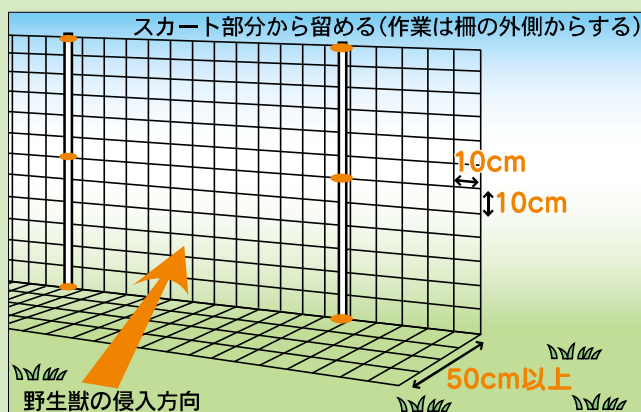
①柵の外側は草を刈り払う
②柵の管理道は柵の外側につくる。
③2m以上離して人の活動域を作り管理に利用
④林縁部から離して柵を張る
⑤高さはイノシシなら1.2m以上、シカなら1.8m以上必要
⑥網目はイノシシ、シカを問わず10cm以下にする

このようにしてはダメ

・柵までが獣の領域になる
・柵の弱点が観察される
・すぐそばが隠れる場所になる

(2)ワイヤーメッシュ柵

⑦ワイヤーメッシュとは建築用の溶接金網のことで5mm径以上を使用する
⑧ワイヤーメッシュの縦線が外側(侵入側)に、横線が内側(圃場側)になるように設置する
⑨忍び返し:上から30cm部分を20°〜30°折り曲げ踏切位置を遠ざける

上部を折り曲げると柵が迫ってくるように見え後ずさりする。

(3)金網フェンス

⑩下からの侵入を防ぐため地際の網を50cm以上折り曲げる(スカート部分)

3.ネット柵

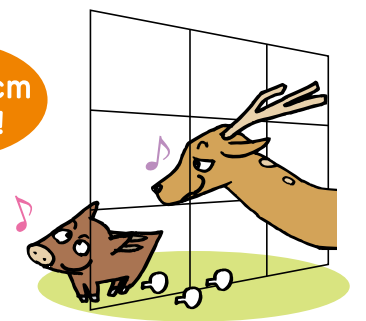
漁網や獣害防止専用ネットで囲うもので、一般にシカ被害防止を目的に設置されています。草刈りやツル切り作業、補修管理が欠かせませんので、管理しやすい規模、場所を念頭に設置してください。

目合いが大きいと頭を突っ込む

10×10cm
以下に！

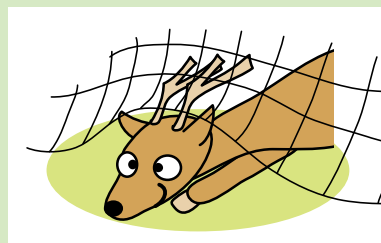
効果の高い柵とは

①編み目の目合いは10cm以下

目合いが15cmでは、イノシシの幼獣は通り抜けます。
幼獣を追って成獣も入ろうとします。
シカでは角がネットに絡む事故が発生します。

②地面と隙間がないように張り、杭で固定する

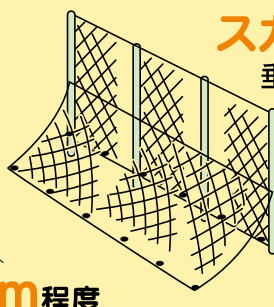
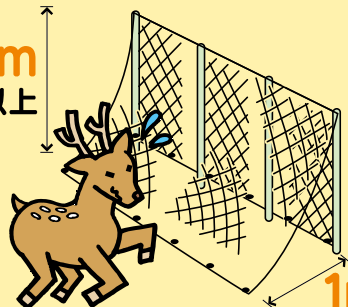
潜り込みによる侵入を防止するため、地面との隙間がないように張ります。
獣は飛び越えるより下に潜り込もうとします。

③シカ対策では柵の高さは1.8m以上

柵が低いと飛び越えられます。
支柱間で大きくたわまないように上端のロープはしっかり張ります。

④丈夫なネット

シカやイノシシ以外にも野ウサギによってもかみ切られます。そのため、ステンレスが編み込まれたネットや高強度の繊維で作られたネットが市販されています。

⑤ネットを垂らして近づけさせない

足下に障害物があると嫌がります。ネットを斜めに垂らして張ると柵に近づきにくくなります。

⑥除草、補修で機能維持

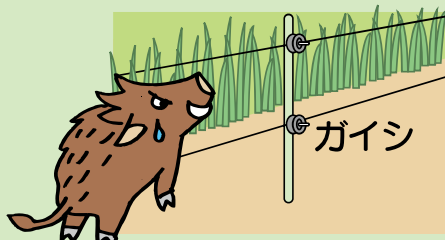
柵の周囲の草刈りをして野性動物の隠れ家をなくします。特にクズやマタタビなどのツル性植物が絡むと風の抵抗が増し、植物自体の重みが加わって、傾きやすくなります。
また、枯れ枝、倒木、シカなどの動物が絡みつく事故が発生し柵が破損するケースがたびたび発生したり、シカやイノシシ、野ウサギなどによってかみ切られることがあります。そのため、日頃の点検・補修が欠かせません。

4.電気柵

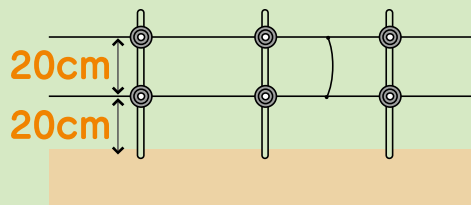
施設上の注意
・取扱説明書を良く読んでから、電気柵を設置する。
・ふれるとキケンなどの「危険表示板」を必ず付ける。
・家庭のコンセントなどを電源とする機種は、漏電遮断器を接続する。

動物に電気ショックを与え追い払うシステムです。正しく設置して、適切に管理しましょう。

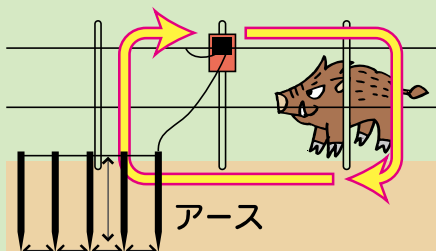
①ガイシの向きは外側に

最初に縦棒を押す習性があります。
電気ショックを与えるためにかならずガイシは外側に向けましょう。

ガイシ(碍子):電線と支柱を絶縁するもの
(プラスチック製ほか)

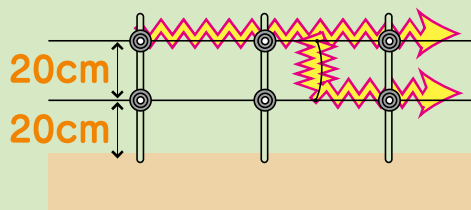
②電線の高さは20cm間隔

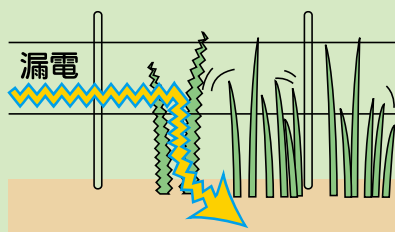
最も敏感な鼻に電線を触れさせるために、電線の高さは下記表のとおりです。

電線の高さ						
イノシシ	20cm	40cm	60cm			(3段)
シカ	20cm	40cm	60cm	90cm	120cm	(5段)

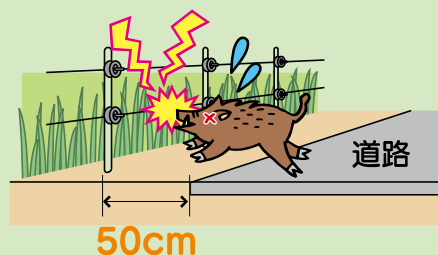
③効果の決め手はアースです

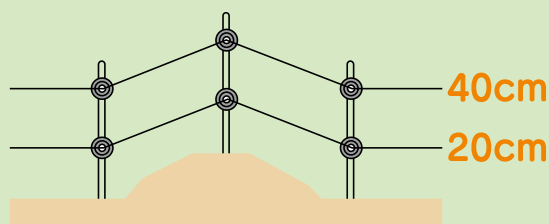
アースは湿った土壌に差し込みます。
深く埋めるほど効果は高くなります。

アース棒の間隔もできるだけ離します。(1m以上)

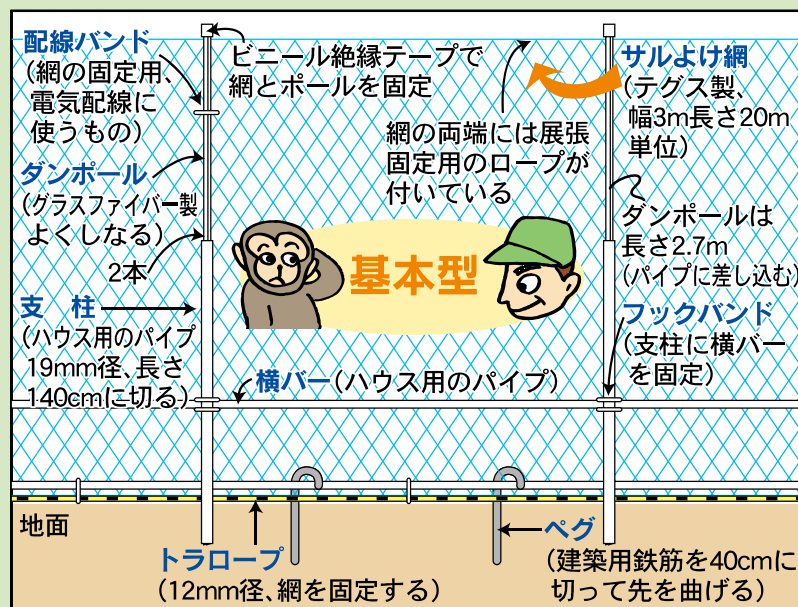
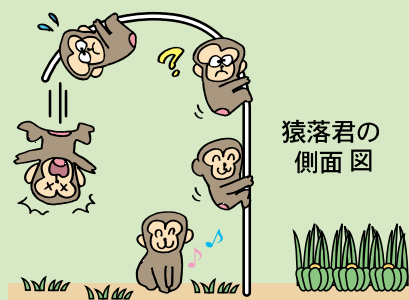
④結線していますか？

50～100mに1箇所は上下電線をつなぎましょう。
上段から下段(またはその逆)に電流を流すため、どちらかが途切れた場合の備えにも必要です。

⑤漏電防止のため定期的な草刈り

電線に雑草が接触すると漏電して電圧が落ちてしまいます。
見回りと草刈りを徹底しましょう。

⑥舗装から離して

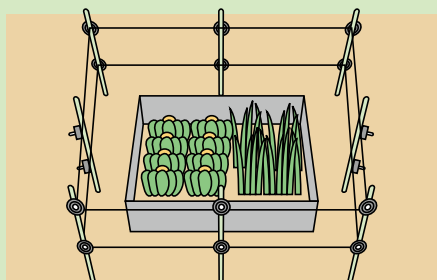
足が舗装道路上にあると、電流が体内に流れにくくなります。(舗装道路が絶縁体であるため)
舗装道路から50cmは離して、少なくとも前足を地面に付けさせましょう。

⑦隙間を作らない

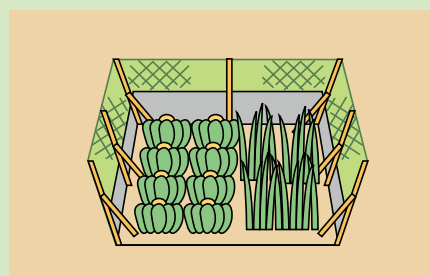
凸凹な地形でも隙間が出来ないように支柱を追加したり間隔を調整して、張り方を工夫しましょう。
あくまで地際20cmを保ちましょう。

5.猿落君

ハウス用の直管パイプにしなる支柱(ダンポール)を差し込み、これにネットを張ったサル対策用防護柵です。
この改良型にイノシシにも対応した「おうみ猿落(えんらく)君」があります。

猿落(えんらく)君の基本型

6.組合せ柵

複数の防護柵を組み合わせて奥行きをもたせ、攻略が難しい柵へ機能アップ

①トタン柵の外側を電気柵で囲む
②ワイヤーメッシュ柵にトタン柵を加える
③ネットや金網の下部をトタン板、遮光ネットなどで囲う
④金網の上部に電線を張る

作物をトタンで囲い、その外を電気柵で囲う。

(・獣の目で確認させない。
・電気ショックの時、前へ突進しにくい。)

作物をトタンとネットで囲い、斜めの支柱で補強する。

(・獣の目で確認させない。
・トタンだけより乗り越えにくい。)

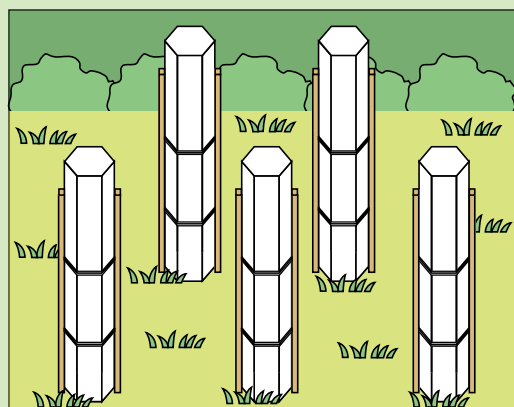
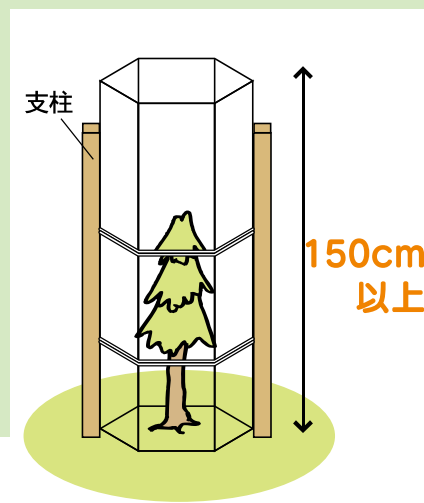
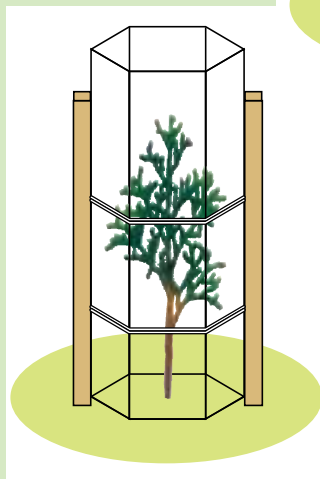
ネット柵と電気柵の組合せ

ネット柵とトタン柵の組合せ

7.樹木防護(ツリーガード)

主としてシカによる樹木枝葉の食害や剥皮防止を目的に使用されています。

①枝葉採食被害対策

植栽苗を囲って守ります。
・高さは150cm以上
これより低いと伸び出た部分が食べられます。
・格子状より板状タイプ
格子状のシェルターはツル植物が絡みやすく、伸び出た枝が障害となって取り外しが困難となります。
・支柱は2本
1本では風にあおられ、倒れやすくなります。
・支柱とシェルターをひもで固定
市販のPPひもは劣化が早く半年しか持ちません。耐久性の高い資材を使います。
・不向きな樹種も
ハリギリなど枯死する樹種があります。
・雑草を除去
シェルター内外の雑草を除去します。

植栽木をシカから守るツリーシェルター

ヒノキは先端が湾曲しやすいので、時々引き上げが欠かせません。

②剥皮害対策

オスジカによる角のこすりつけや樹皮食いにより剥皮されます。樹皮が剥がされるとそこから腐朽菌が侵入し、木材として使えなくなります。
幹を資材や枝などでガードすることで防ぐことができます。

防護資材で幹をガード

枝でガード

間伐材でガード

8.防鳥ネット

農作物を完全に覆うことができれば、被害をなくすことができるため、コストはかかるが確実な対策として用いられています。

■防鳥ネット設置のポイント

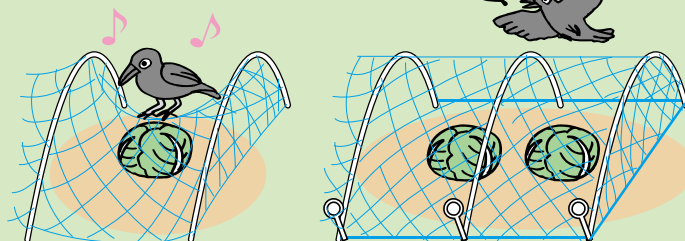
○作物の種類や栽培の規模によっては、完全に覆うための費用が高くなるため、コストを十分考慮してネットを設置するかどうかの判断をする必要がある。
○被害を及ぼす鳥種によって、適正な網目の大きさのネットを用いないと、網目から侵入されることがある。
○網目が小さいほど防鳥効果は高いが、風雪などによる影響が大きくなるため、被害を及ぼす鳥の種類を見極めて網目を選択する。

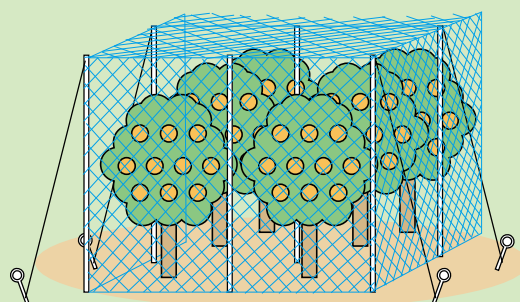
網目選択の目安とネットの価格

対　象　種	網目サイズ	単　価（18×36m:200坪用）
スズメ	2cm	14,000円前後
ヒヨドリ・ムクドリ	3cm	6,500円前後
カラス	7.5cm	2,000円前後

①畑での利用

ネットの張りがゆるいと鳥の重みで垂れ下がり、被害が出てしまう。

ネットは緩みのないようにしっかり張る。

ネットと地面の設置部分はめくり上がらないようにペグなどでしっかりと固定し、地面との間に隙間ができないようにする。

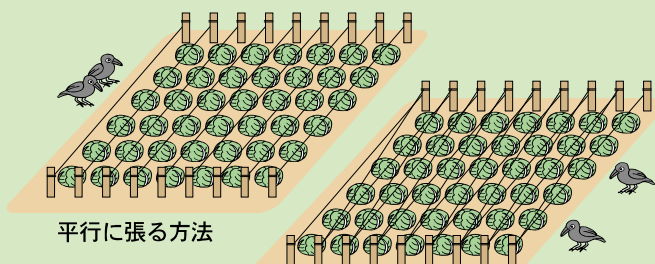
②果樹園での利用

上部のネットがたるまないように、支柱を設置したり支柱間にワイヤーを渡すなどが必要。

9.テグス・糸・針金など

防鳥ネットのように完全に被害を防止することはできませんが、カモ類やカラス類など大型の鳥類に対しては、農地の周りに糸状のものを張ることで、ある程度の侵入防止効果が期待できます。

■設置のポイント

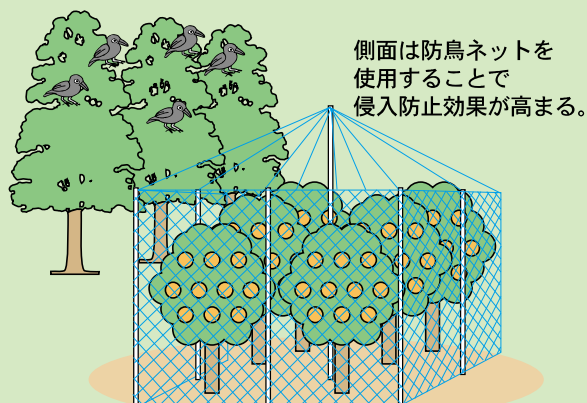
○テグスでなくとも、水糸のような丈夫な糸、針金などでもよい。
○張る間隔は、カモ類カラス類が翼を広げた長さ（約1m）より狭くするとよい。
○鳥類の侵入経路をみきわめ、侵入を妨害するように張る。

①畑での利用例

平行に張る方法

斜めにも張る方法

畑の周囲にテグスを結びつける杭などを設置し、杭と杭を結ぶようにテグスを張る。

②果樹園での利用例

○果樹より少し高い位置から放射状に張る方法や、縦方向や斜め方向、格子状にテグスを張る方法などがある。
○側面から歩いて侵入されやすいので、防鳥ネットを併用するとよい。

側面は防鳥ネットを使用することで侵入防止効果が高まる。

鳥獣害対策の大事なポイント

集落ぐるみ、みんなで対応する

1 集落環境対策
集落をエサ場にしない

集落環境対策を
徹底することで
防護柵の効果が高まる

3つの対策が相乗的に
効果を発揮するには
集落ぐるみの対応が重要

2 防護柵を設置
農地を効果的に囲う

3 捕獲圧を高める
適切な駆除を行う

防護柵を効果的に設置する
ことで捕獲しやすくなる

まず集落での勉強会を実施しよう！！！

集落みんなで勉強

全員で点検活動

集落点検をしよう！

全員が意識を持って行動すれば大きな効果！

集落ぐるみで集落点検

集落全体のことがわかってくる。

集落点検図の作成

被害箇所、けもの道、獣の痕跡
（フン、ヌタ場等）を記入する。

エサになるものをなくす

集落をエサ場にしない。

防護柵設置・管理

みんなですると団結力、知恵が出てくる。

複数農家でわな免許をとろう

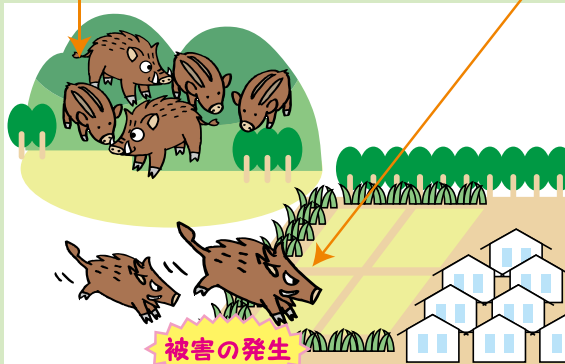
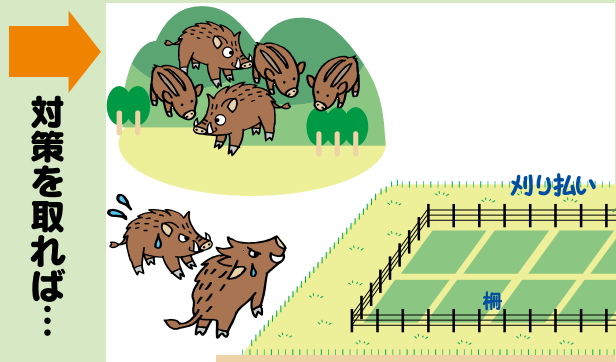
みんなで捕獲を楽しもう。

適切な駆除（捕獲）行う

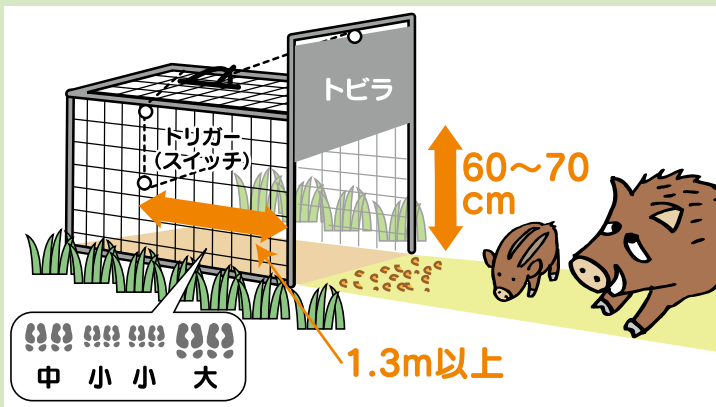
「暮らしを守る獣害対策マニュアル」（農文協）イノシシを捕獲する（監修：小寺祐二）より一部改変して引用

1.山の10頭より里の1頭を

被害を起こすのは集落周辺に潜むイノシシ、シカです。加害個体を確実に捕獲し、被害を防ぎましょう。

山のイノシシ（非加害群）
山林の食べものだけで暮らしているイノシシ
彼らを獲っても被害は減らない

里のイノシシ（加害群＝捕獲対象）
生活の主は山林だが、田畑の作物を食べることを覚えてしまったイノシシ
人間への警戒心はまだ持っているので、田畑や住宅地に出没するのは夜間

対策を取れば…

2.箱わなの設置ポイント

①設置場所
耕作地からの距離が200～600m以内に設置。耕作地に近すぎると被害を誘発する危険があり、これより近い距離に仕掛ける場合は、耕作地の防護柵設置が前提となる。また、加害するイノシシの行動半径からすると、600m以内が望ましい。

②設置時期
イノシシが箱わなで捕獲しやすいのは、冬から春・夏にかけて。秋は誘引エサとなる米ヌカ等よりも好むドングリ類が実るため、箱わなによる捕獲は難しい。

トビラ
トリガー（スイッチ）
60～70cm
1.3m以上
中　小　小　大

③誘引用のエサ
米ヌカが一般的だが、飼料用の圧片トウモロコシも使用される。

④箱わなの大きさ
タテ・ヨコ1mの入口、奥行き2mくらいが一般的だが落としトビラの高さは、大きなイノシシでも肩の位置は高くないから、60～70cmあればよい。（その方が早く落下する）また、トリガーから入口までは1.3m以上とする。

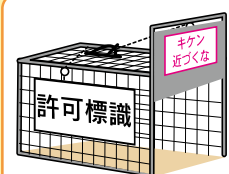
⑤箱わなの設置状況
わなの底は、地面を掘って埋め、設置後は段差を無くす事。春が来る前に設置すると、かく乱した地面にも草が生え、警戒されずに済む。

※箱わな捕獲の原則
箱わなは、群れごと捕るのが原則。箱わなを設置したときは、幼獣がトリガーに触れた位ではトビラが落ちず、成獣がトリガーに触れたらトビラが落ちるように、トリガーの強度と高さを調整してセットする。
幼獣が触れただけで、トビラが落ちるようにすると、幼獣だけ獲れて、親を獲り逃すことが多い。そうするとその親はわなへの警戒心を強め、箱わなにかかりにくくなってしまう。そのため、群れごと一度に捕獲する必要がある。

被害対策の捕獲には、免許と許可が必要です。

狩猟免許
- 網猟免許
- わな猟免許
- 銃猟免許

都道府県が実施する試験を受ける

被害対策としての捕獲（有害鳥獣捕獲）を行うには、狩猟免許のいずれかと、捕獲許可が必要です。箱わな、囲いわなで捕獲するには、わな猟免許を取得した上で、市町村役場で捕獲許可を受けます。

わなには必ず許可標識を掲示する

耕作放棄地に牛を放そう!

人が草刈りできないなら牛に食べてもらいましょう!

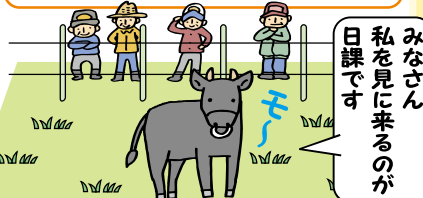
〈放牧直後〉

〈放牧終了後〉　（杵築市）

牛放牧のポイント

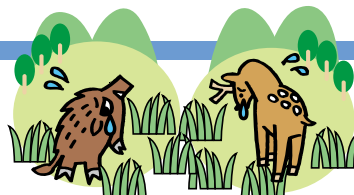
- ●電気牧柵で囲う
- ●放牧に慣れた牛を使う
- ●1haに1頭の割合
- ●2頭以上で飼う
- ●狭い面積でも飼える
- ●水飲み場を設置する
- ●牛の導入は畜産農家と連携する
- ●家畜導入制度を活用する
- ●日陰となる木等が必要

集落ぐるみで牛放牧

牛を使って、耕作放棄地をなくす。

《放牧風景》

（宇佐市）

（玖珠町）

鳥獣害対策連絡先

1 大分県庁　農林水産部　森との共生推進室　TEL097-506-3876

2 県振興局

東部振興局	農山漁村振興部	TEL0978-72-0156
中部振興局	農山漁村振興部	TEL097-506-5749
南部振興局	農山漁村振興部	TEL0972-22-0393
豊肥振興局	農山村振興部	TEL0974-63-1174
西部振興局	農山村振興部	TEL0973-22-2585
北部振興局	農山漁村振興部	TEL0978-32-0622

3 市町村

地区	市町村	担当課	電話
東部	別府市	農林水産課	TEL0977-21-1111
東部	杵築市	農林課	TEL0978-62-3131
東部	国東市	林業水産課	TEL0978-72-5198
東部	姫島村	企画振興課	TEL0978-87-2111
東部	日出町	農林水産課	TEL0977-73-3127
中部	大分市	農林水産課	TEL097-537-5783
中部	臼杵市	農林振興課	TEL0974-32-2220
中部	津久見市	農林水産課	TEL0972-82-9514
中部	由布市	農政課	TEL097-583-1111
南部	佐伯市	農林課	TEL0972-22-4214
豊肥	竹田市	農政課	TEL0974-63-4805
豊肥	豊後大野市	農林整備課	TEL0974-22-1001
西部	日田市	林業振興課	TEL0973-22-8212
西部	九重町	農林課	TEL0973-76-3804
西部	玖珠町	農林業振興課	TEL0973-72-7164
北部	中津市	林政課	TEL0979-22-1111
北部	豊後高田市	農林振興課	TEL0978-22-3100
北部	宇佐市	林業水産課	TEL0978-32-1111

4 大分県猟友会　TEL097-532-4543

参考文献：「山の畑をサルから守る」　井上雅央（農文協）
「イノシシから田畑を守る」　江口祐輔（農文協）
「山と田畑をシカから守る」　井上雅央、金森弘樹（農文協）
「カラス　おもしろ生態とかしこい防ぎ方」　杉田昭栄（農文協）
「暮らしを守る獣害対策マニュアル」　井上雅央、江口祐輔、小寺祐二（農文協）
「野性鳥獣被害防止マニュアル（イノシシ、シカ、サル）ー実践編ー」　農林水産省生産局
「野性鳥獣被害防止マニュアルー鳥類編ー」　農林水産省生産局

H24.8　大分県農林水産部　森との共生推進室 発行